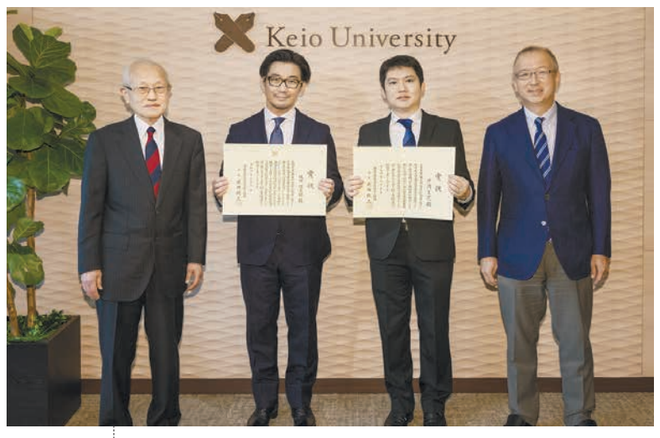
慶應義塾 医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　武田　純三
毎月　１回20日発行

三四会ホームページ

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●外来診療時間＝午前8時40分～午後12時 午後1時～午後4時（特殊外来）
●電話＝03（3353）1211（大代表）

北里賞・北島賞　授賞式を挙行



左から、武田会長、北島賞　林田君、北里賞　片岡君、金井医学部長

北里賞　片岡　圭亮
（慶應義塾大学医学部内科学（血液）教授）
「がん種横断的解析による発がん機構の解明」

北島賞　林田　健太郎
（難治性循環器疾患病態学寄付研究講座　特任准教授）
「心構造疾患（struvtural heart disease,SHD）に対するカテーテル治療の全国多施設共同研究（OCEAN-SHD）の構築と主導」

例年6月に開催しております北里記念式において、三四会賞（北里賞・北島賞）の授与式を行っておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、今年は北里記念式が中止となりました。

そこで、6月10日に、三四会賞（北里賞・北島賞）の授与式を武田純三会長と金井隆典医学部長で執り行いました。

なお、受賞者の講演会は、三四会ホームページでご紹介しています。

北里賞
北里賞受賞に際して

内科学（血液）教室教授　片岡　圭亮（84相当）

この度は、令和4年度の北里賞にご選出いただきまして、心より御礼申し上げます。本賞のご選出にご尽力いただきました選考委員の皆様には、この場をお借りして感謝申し上げます。

私は、これまで機能解析と情報解析を組み合わせて、造血器腫瘍を中心とした悪性腫瘍の遺伝子異常とそれに基づく分子病態の解明を試みてきましたが、今回は、「がん種横断的解析による発がん機構の解明（2020年にNature誌に発表）」に関して、本賞を受賞させていただきました。この研究では、様々ながんゲノム公開データを組み合わせて解析することにより、新たながん遺伝子の特徴を解明したいという動機から、これまでで最大規模の症例数（約6万例）を対象とした横断的がんゲノム解析研究を実施しました。その結果、同一がん遺伝子内において、複数の変異が比較的高頻度に存在しており、変異同士が相乗的ながん化を促進するという新たな発がん機構を発見することができました。さらに、この複数変異は、単独では比較的低頻度で機能的に弱い変異に集積していました。

また、私が専門とする血液がんにおいても、各病型に特徴的な複数変異が認められました。これらの結果は、複数変異が分子標的薬の反応性を予測するバイオマーカーとなり得る可能性を示唆しており、がんゲノム医療に役立つことが期待されます。この研究の過程で最も苦労したのは、Nature誌のmajor revisionとなり、追加実験・解析に取り組んでいる最中に、類似の論文がScience誌に発表されたことです。しかし、私達の論文の方が優れていると信じて、研究室一丸で実験・解析に取り組み、約1か月で再投稿した結果、無事に受理していただくことができました。

ともに研究を頑張ってくれた研究室メンバー（特に筆頭著者である斎藤優樹君　94回）には、心より感謝しております。今回の受賞を励みとして、今後も精進して参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

北島賞
2022年北島賞を受賞して

内科学（循環器）教室　林田　健太郎（79回）

この度は北島賞を頂き、身に余る光栄と心より感謝申し上げます。

私はこれまで心臓カテーテルを専門とし、特に弁膜症治療に注力してまいりました。受賞の対象となりました「心構造疾患に対するカテーテル治療の全国多施設共同研究の構築と主導」についてですが、私がフランスに留学した際に日本の国際的プレゼンスの低下に危機感を感じ、「志を同じくした仲間が学閥を超え世界と対等なパートナーとして日本から世界にデータを発信していく」ことを理念とし、2012年に「社団法人OCEAN-SHD研究会」を立ち上げました。

現在当院を主幹として各地域を代表する27施設のhigh volume centerが一切招致ではなく自らの強い意思で参加しているため、現在一万例以上が登録されているにも関わらず一年経過観察率は99%と非常に高く、これまですでに90報以上の論文が採択され、日本を代表し世界でも有数のレジストリーとなっております。術者の視点から日常臨床に即した有用な研究を心がけ、日本や欧米のガイドラインにも多くの論文が引用されております。今後はレジストリー研究のみならず「日本からNEJMを」を合言葉にRCTを近々開始予定です。

本研究を通して最も大切だと感じるのは、志を共有した仲間との連帯と、人とのご縁だと思います。OCEAN-SHD研究会の参加全27施設の仲間全員と関係する方々にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。また院内でもこれまで1200例以上のTAVIが施行され、世界的に見て最も高い安全性が達成されています。これも志水教授を初めとするハートチームの皆様方、関係各科やコメディカルの皆様方、並びに病院執行部の先生方、患者様をご紹介くださる三四会の先生方、また循環器内科の医局員とご指導頂いた福田教授のお陰と心より御礼申し上げます。

今後も治療成績の向上、新規治療の確立、日本の世界における地位向上、慶應医学の発展のために精進して参りますので、引き続き今後ともよろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

信濃町2号館9階に
産学連携・イノベーション拠点を開設

木目とグリーンを中心としたリラックスできるラウンジ

慶應義塾大学信濃町キャンパスにおける産学連携・イノベーション拠点として、2号館9階の一部が信濃町Innovation design Lab（Id Lab）として整備された。2021年の冬から着工して2022年3月にオープンとなった。本拠点はJST・SCORE大学推進型（拠点都市環境整備型）事業として採択されたInnovation design Platformの活動の一環として整備され、慶應義塾大学内の他学部や、東京工業大学、東京大学、東京医科歯科大学等の他機関との連携も見据えた運用が今後行われる。

2号館9階は「今後の整備が期待される未使用の」エリアもあるが、現在は2号館の南側エレベーターで9階へ行くとId Labへと入ることができる。ガラス張りの壁や観葉植物を設えた開放的な内装に加え、窓から見渡すと神宮外苑を一望できる展望もあり、非常にリラックスした環境でビジネスプランなどを検討できる空間となっている。また、プロジェクターやスピーカー等のオンライン会議システム、移動式の椅子・テーブルも設置しており、様々なイベント開催にも柔軟に対応できる。

運用の詳細は順次告知を行う予定であるが、本拠点では、信濃町の医科学研究連携推進センター・臨床研究推進センターなどの産学連携や起業支援を行う学内の部署が中心となり、三田のイノベーション推進本部と連携して、起業に興味のある研究者のハンズオン支援や、アフターコロナを見据えて様々なイベントとの開催拠点として活用していく計画である。

これらのラウンジスペースに加え、セキュリティの管理された部屋も隣接して整備されている。この部屋から匿名化された医療情報にアクセス可能なブースを設置している事も本拠点の大きな特徴である（システムについては今後整備予定）。これは病院の中に本拠点を整備することによって可能になった事であり、AIホスピタル事業等で整備されたデータを研究者等が利活用できる場所としても機能を発揮することで、産学連携によるデータ駆動型のメディカル・ヘルスケアシーズの創出拠点となる事を目指している。

慶應義塾大学医学部では、産学連携・イノベーション、起業支援を行う部門の設置やキャンパス間連携も加速しており、さらに各種公的プロジェクトの採択も含めて、大学からの産業創出に関わる動きが様々なレベルで活性化してきている。信濃町キャンパスにおいても本拠点を通して、世界に羽ばたく新しいスタートアップ・ベンチャーの創出の事例が生まれていく事を期待したい。

（整形外科学教室　中村雅也　66回）

春の叙勲

瑞宝中綬章
小松本　悟（内54回）
〈保健衛生功労〉
元　足利赤十字病院長

瑞宝中綬章
西山　正徳（精56回）
〈厚生労働行政事務功労〉
元　厚生労働省健康局長

瑞宝小綬章
藤村　祥一（整47回）
〈保健衛生功労〉
元　（独）国立病院機構相模原病院長

瑞宝双光章
伊井　祥（外55回）
〈学校保健功労〉
学校医
伊井外科医院院長

瑞宝中綬章を受章して

足利赤十字病院名誉院長　**小松本　悟**（54回）

この度、瑞宝中綬章受章の栄に浴しましたことを報告させて頂きます。慶應義塾大学病院の関連病院の一つである足利赤十字病院に長く勤務させて頂いた賜り物と考えております。

また、慶應義塾大学塾長伊藤公平先生、常任理事北川雄光教授、医学部長金井隆典教授、病院長松本守雄教授、三四会会長武田純三先生をほじめ多くの慶應関係者より祝電をいただき光栄に思っております。

私は、1975年に慶應義塾大学医学部を卒業し神経内科の大学院に籍を置きました。その後、米国フィラデルフィア大学へ留学し、1990年に足利赤十字病院へ神経内科部長として赴任を命じられました。着任後は、赤十字海外医療救護のメンバーとして、ポルポト政権崩壊後のカルボジアで医療支援等にも従事しました。1994年の副院長拝命を機に、病院経営マネジメントに専念することを決意し、MBAの資格を得ました。当時、旧病院は老朽化と狭隘化が、地域に根差した今後の病院経営に負の影響を与えようとしていました。

そのため、2006年頃より全面移転計画に着手し、58千㎡の敷地に分棟型による540床の全室個室病院を建築しました。2011年7月の新病院開院後、病院経営は急速に改善し、病床稼働率も常に100%を維持することが出来ています。栃木県南部における医療圏（80万人）で唯一の三次救命救急センターを有した地域中核病院として、その役割を果たしてきました。経営的には減価償却前の利益率が12%を超えるようになり、赤十字91病院群で1位を獲得出来るようになりました。また、病院のエネルギーシステムは、水・光・風・緑など、自然エネルギーを活用し次世代型グリーンホスピタルを実現させました。脱炭素社会に向けた先進的な取り組みは、第1回カーボンニュートラル大賞や省エネ大賞、2016年には国際医療福祉建築賞第1位を受賞し、国内外で高く評価されています。

現在、医師は133名で、初期臨床研修医、後期研修医、部長、副院長をはじめ多くの医師を慶應義塾大学より派遣して頂いております。今後は、この栄誉を糧に、足利赤十字病院は更なる進歩を遂げたいと考えておりますので、慶應義塾大学病院、慶應の関連病院の先生方よりの御指導、御助言をお願いする所存であります。

瑞宝中綬章を戴いて

西山　正徳（56回）

このたび春の受勲で瑞宝中受賞を頂きました。特段何かしたとは思いませんが厚生労働省や慶應義塾等各方面の方々のご支援あっての栄誉であると感謝しております。

昭和52年本学を卒業し、精神神経科教室（保崎秀夫教授（当時、故人））に入局、一年間の信濃町研修ののちに国立久里浜療養所に勤務。3年間の臨床修練を経たのち公衆衛生行政の道に進みました。当時の公衆衛生行政の中心をなす厚生省には70名ほどの医系技官（現在では200名以上）が働いており三四会出身者も少なからずおられご薫陶を頂戴しました。

昭和56年行政官としての駆け出しから平成20年健康局長で退官するまで27年間勤務し、様々な経験を積みました。大きくは、水俣病対策、原爆後遺症対策、ハンセン氏病対策、新型インフルエンザ対策などの「疾病対策」と診療報酬制度、介護保険制度等の「社会保障政策」の二つでした。

瑞宝小綬章を受章して

国立病院機構相模原病院名誉院長　**藤村　祥一**（47回）

この度、令和4年春の叙勲において、図らずも瑞宝小綬章を拝受しました。慶應義塾の塾長を初め、医学部、三四会の先生方から祝電をいただき、厚くお礼申し上げます。半世紀余の整形外科医として叙勲に相当する公共的な業績を挙げたという認識が全くなかった私にとって、この栄誉は関係者のご尽力によるものと感謝いたしております。特に日本医師会をはじめとする医療界と大蔵省・経済界とが診療報酬改定率の上げ下げを巡りしのぎを削りつつ議論を展開する中央社会保険協議会（中医協）の担当だった保険局時代は寝食忘れての勤務が続いたことを記憶しています。

平成15年12月18日は午前零時を回っても決着がつかず、小泉純一郎総理の最終決断を受けざるを得ない「暁の決着」と呼ばれる事態にまで至りました。（結局はプラスマイナスゼロ改定）こうした医療政策を進めるにあっても日本医師会、日本病院会等様々な団体の要所要所に三四会の先輩がおられ多くのご助言・ご支援を賜りました。心から感謝申し上げます。最後になりますが、慶應義塾の益々のご発展を祈念し勲章授与のご報告とさせて頂きます。

瑞宝双光章をいただいて

伊井　祥（外55回）

勲章など無縁と思っていましたが、40年間学校医を続けたというだけで瑞宝双光章など頂戴して大変恐縮しています。外科卒後研修6年目の5月に、父が心筋梗塞で急逝（享年56）し、富山県滑川市の実家へ戻りました。43床の病院を新築したばかりで、借金の額に驚きつつ、右も左も分からぬまま夢中で悲しむ余裕はなかったように記憶しています。加えて29才の独身で不勉強でしたので、2―3年は仕事が暇で、やる気が出ず、サービス業のイロハ習得と理由をつけて殆ど毎晩繁華街へ繰り出していました。当初15年間は入院手術を続けていたので外科先輩の古屋正人先生（49回）、笠島学先生（51回）、整形外科道振義治先生（54回）、西山正夫先生（55回）、須田康文先生（65回）等多くの先生方に助けて頂きましたし産婦人科家城匡純先生（48回）には時々帝王切開などの手術助手で呼ばれて勉強させてもらい、息子3人も帝王切開で取り上げて頂きました。長男が生まれてからは、しっかりせんといかんなあと考え以後真面目にやっています。またその頃から富山医薬大第2外科より派遣医を出してもらい助けてもらいました。小生のような不勉強者でも慶應医学部卒というだけで一目置いてもらい非常に大事にして頂きました。三四会の諸先輩の御陰と思っています。5年前に医療法人化し現在は従業員10人でホームドクター的な外来診療のみで診断に迷うとすぐ紹介しています。70織の古希を迎え、酒を控えつつ、週末のゴルフ、温泉旅行、たまに金沢競馬などで息抜きしています。4年前に右肘部管症候群で手術した以外、体は至って丈夫で大病せずに今日まで来れた幸運と、優しく見守って下さった三四会の諸先生方にとても感謝しています。問題は医師としての引退時期ですが、市内病院外科勤務の弟のアドバイスを受けながら、あと5年程頑張って終ろうかと思っています。

2022年度坂口光洋記念慶應義塾医学振興基金
医学国際交流事業募集

申請区分別募集内容（申請期限にご注意ください）

A区分　【短期海外留学プログラム/短期海外研究留学】費用補助（1件あたり上限30万円）

区分	A-1：短期海外留学プログラム	A-2：短期海外研究留学
申請資格	慶應義塾大学医学部生(3～6年) / 医学研究科大学院生(修士1・2年) 医学分野の研究・学習のために海外へ短期留学するもの（海外大学主催の サマーセミナー等 を含む）※授業・試験等正課のない夏期休暇期間に限る	医学研究科大学院生(修士・博士課程) 共同研究を展開していくために指導教授の指示により短期留学するもの※2022年4月～2023年3月末帰国分(予定を含む)※修士課程については授業に差し障りがない時期
申請期限	2022年 6月 27日（月）正午	2022年 11 月 28日（月）正午

B区分　【海外オンライン学習プログラム】費用補助（1件あたり3万円～10万円）

申請資格	慶應義塾大学医学部生(1～6年)　/　医学研究科大学院生(修士・博士課程) オンライン開催の海外大学・団体主催の医学および、その関連分野(文系も含む)の研究・学習のためのプログラム参加費用補助※義塾での正課に差支えないものに限る(日時・期間等)
申請期限	2022年 11 月 28日（月）正午

C区分　【国際共同研究】費用補助（件数5～7件/採択額10万円～70万円程度）

申請資格	慶應義塾大学医学部生(1～6年) / 医学研究科大学院生(修士・博士課程) / 医学部専任教員/医学部特任教員 / 大学病院研修医
補助内容	慶應義塾所属の研究者(チーム も可)と海外の研究機関(チーム も可)に所属する研究者との国際共同研究にかかる費用(学術研究の発展とともに、国際共同研究の基盤の構築や更なる交流、研究強化費用等) 義塾所属の研究者が日本国内で支出する費用に限る
申請期限	2022年 6 月 27日（月）正午

D区分　【医学部公認団体の国際交流活動】費用補助（1団体上限20万円）

申請資格/補助内容	慶應義塾大学公認学生団体(医学部) 2022年度の補助対象の活動に直接関係のある支出
申請期限	2022年 11 月 28日（月）正午

E区分　【国際学会参加】費用補助（オンライン開催上限5万円、実地開催上限30万円）

申請資格	慶應義塾大学医学部生 / 医学研究科大学院生(修士・博士課程)で、筆頭発表者として2022年4月～2023年3月開催分(予定を含む)国外で行われる 国際学会へ参加する者
補助内容	オンライン開催：国際学会への参加費（registration費用）等 実地開催：学会開催地への往復航空券運賃 等
申請期限	2022年 11月 28日（月）正午

F区分　【英語能力検定試験奨励金費】（1万円1人1回）

申請資格	慶應義塾大学医学部生(1～6年)　/　医学研究科大学院生(修士・博士課程)
補助内容	2022年4月～2022年12月受験分(予定を含む) TOEFL IBT®　またはIELTS 英語試験受験費用補助
申請期限	2022年 11月 28日（月）正午

申請方法　：医学振興基金HPのオンラインフォームよりご申請ください。
詳細は下記の医学振興基金HPでご確認ください。
https://www.ms-fund.keio.ac.jp/international
医学振興基金事務室：直通03-5363-3609　内線：62377　✉k-msf@adst.keio.ac.jp

鑑偶知来

医学部を卒業し医師になって半世紀を超えました。その間、医学、医療は想像もつかなかったほどのすばらしい発達・進歩を遂げてきました。それに伴い長年医療現場には欠かせなかったものが次々と姿を消してゆきました。診察室の洗面器の手洗い、ガラスの注射器、X線フィルムやシャーカステン、フィルムのスライドなど枚挙のいとまがありません。

その一つに紙カルテがあります。今や電子カルテは保存・管理や事務処理などが紙カルテに比べて圧倒的に優れていることに誰も異論はなく、ほとんどの医療施設で電子カルテに置き換わっているのが現状です。しかし、手書きの紙カルテは持ち運ぶことができる、複数のカルテを同時に見開いてみることができる、以前の記載をぱらぱらとめくって見ることができるなど便利な点があります。

それに加えてなにより記載の自由度が高いことが優れています。手書きカルテは記載者の個性が現れており、その時の考えを行間に感じることができます。絵心のある医師ですと要点を見事に表現したスケッチなども加えられていることもありました。分厚くなった入院カルテをみるとすぐにその患者さんの顔が浮かび、色々なことが思い出され、紙カルテは何か心が通じる感じがありました。

皮膚科では皮疹の観察・記載が重要で若い頃は診察医が症状や診断を英語・ドイツ語まじりで口述されるのを筆記するのが勉強の一つでした。電子カルテでは登録されていない病名や術語、さらに欧文で入力するのは一苦労です。結局は電子カルテに合わせることになり主導権を握られた形です。診察も電子カルテの画面に向き合う時間が多くなり、患者さんと正対して話すことが少なくなって機械的な対応になってしまいがちです。患者さんも雑談的な話をするのも遠慮気味です。電子カルテに紙カルテの良い点を加えて温かみが感じられるような工夫はできないでしょうか。これらは単なる懐古的な心情か老医の愚痴でしょうか。

（皮膚科学教室　原田敬之　47回）